

知の泉

Castalia

第 20 号
2013.09

東京外国語大学附属図書館報

Tokyo University of Foreign Studies Library Bulletin

---Contents---

02 館長巻頭言

03 使ってみよう、eBOOK!!

05 米国大学図書館におけるエンベディッド・ライブラリアンの調査研究

06 平成 24 年度附属図書館公開講演会・特別展示報告

10 図書館統計

12 図書館活動日誌・編集後記

館長巻頭言

附属図書館長 栗原 浩英

この4月に栗田博之前館長の後任として附属図書館長に就任しました。清潔で明るく、静かな本学附属図書館に足を踏み入ると、心の安らぎを覚えます。また、図書館に収蔵されている大量の書籍、そして読書にいそしんだり、ホワイトボードを使って積極的にグループ学習をしたりしている学生の皆さんの姿を見ると、自分も勉強しなければいけないという気持ちを強くします。私がこのように感じるのは、恐らく前職（アジア・アフリカ言語文化研究所長）時代は日々が「闘い」の連続で、片時も息を抜く間がなく、研究どころではなかったという個人的な事情によるところが大きいことも確かですが、精神の集中を要する緊張した「闘いの場」としての授業に学生の皆さんを送り出すとともに、「闘いの場」から戻ってきた学生の皆さんを暖かく迎え入れる場ともなっている附属図書館の位置にもよるのではないかと思います。

以上のことから、附属図書館はまさに本学におけるオアシスであるといっても過言ではありません。ただし、誤解のないように付言しておきますが、私は本学が不毛な砂漠であると言っているのではありません。附属図書館を除く建物の多くは、それぞれに緊張感のある「闘いの場」であろうということを強調しておきたいのです。

さて、この数年間で、大学図書館に求められる役割は大きく変わってきました。多くの大学図書館が書籍の収蔵と貸出の場という、図書館一般のもつ共通機能に加えて、大学教育の一環として学生の学修支援機能を担うという方向性を明確に打ち出すようになりました。本学附属図書館の場合、具体的にはウェブサイト上での学生のための基本文献ガイド紹介「TUFS-ビブリオ」の開設、本学大学院生スタッフによる多言語コンシェルジュを通じての学習相談デスクの開設（平成23年10月）、学生による主体的な学習を支援する共有スペースとしてのラーニングコモンズ（@ラボ）の開設（平成24年4月）などがあげられます。学習相談デスクとラーニングコモンズは開設以来、多くの人々によって活用されています。これらの学修支援機能に関しては今後さらなる充実を進めていく予定です。さらに附属図書館のスタッフも学術リテラシー授業を担当し、本学の教育に大いに貢献しています。

そして、最後に、学生の皆さんには附属図書館を利用する中で、「空間識別能力」を養っていただきたいと思います。館内には機能の異なる様々な空間がありますが、それぞれに許容されていることと許容されていないことをしっかりと把握していただきたいのです。会話も含め、音を出すことが許容される空間とそうでない空間、水を飲むことが許容される空間とそうでない空間、等々です。このように空間に付与された意味を読み取り、空間を識別する能力を身につけておくことは、皆さんが社会に出てからも極めて重要な資産になることは疑いありません。附属図書館で皆さんがいろいろなことを主体的に学習して下さることを願ってやみません。

使ってみよう、
eBook!!

附属図書館の eBook（電子書籍）が増えました!!

iPad や Kindle、スマートフォンなどで eBook を利用している方も多いと思いますが、図書館では、インターネットブラウザ上で読むタイプの eBook を提供しています。

タイトル数は 1,315 点です。平成 24 年度末に「卓越した大学院拠点形成支援補助金」により 1,103 点を追加購入し、大幅に提供数を増やしました。本稿では図書館の eBook の特徴や使い方をご案内します。これを機会に、学習・研究の有用なツールとしてご活用ください。

eBook の特徴

個人で購入する eBook は小説などの単行書が多いと思いますが、現在図書館で提供している eBook は参考図書が中心です。参考図書とは、辞書、事典、統計、文献目録など、調べ物をする際に使う資料です。

言語は英語が主ですが、日本語も 200 タイトルほど利用できます。

主な eBook サービス	点数	特徴
GVRL	642	16 分野におよぶ英語の参考図書
Cambridge Books Online	156	Humanities Top100 コレクションなどの単行書
Oxford Reference Online	157	辞書やコンパニオン・シリーズなどの参考図書
Maruzen eBook Library	190	日本語の参考図書や東大出版会などの単行書
NetLibrary (EBSCO)	21	人名事典、図書目録などの参考図書(主に日本語)

eBook にアクセス

まずはアクセスしてみましょう。

大学のネットワークに接続された PC から、図書館 HP の右のページにアクセスして、利用したいサービスの「Go」リンクをクリックしてください。なお、各サービスの詳細を確認したい場合は、サービス名のリンクをクリックしてください。

また、個別のタイトルを一覧したい場合は、以下のページを確認してください。

« eBook 全タイトル一覧» http://www.tufs.ac.jp/library/guide/list/ebookList_20130430.pdf

« オンラインジャーナル・データベース»

<http://www.tufs.ac.jp/library/guide/list/online.html#ebook>

e-BOOK* Archives ※全タイトルリストは こちら (2013.4.30現在)		
アジア動向データベース	Go	on campus
アジア歴史資料センター	Go	free
Maruzen eBook Library ※和書のeBook <small>new**</small>	Go	on campus
Net Library(EBSCOhost: eBook Collection ※和書のeBook <small>new**</small>	Go	on campus
Archives Unbound 2014年3月31日まで	Go	on campus
Base textuelle FRANTEXT 2014年3月31日まで	Go	on campus
Cambridge Books Online <small>new**</small> ※タイトルリスト	Go	on campus

eBook の便利な使い方

「参考図書の eBook」、どんな使い方を想像しますか？“電子”書籍ですから、当然、単語や事柄の検索を行うことができますが、eBook サービスならではの利点を知っていると、冊子では手間がかかったり無理だった使い方、簡単に実現できます。

1

全てテキスト化されているので、
本文をまるごと検索できる
⇒ 本文以外にも、図版や写真を
キャプションから検索する
こともできます

同じサービス内の eBook は、
全タイトルを一括検索できる
⇒ 複数の辞書や事典の検索結果を
簡単に比較できます
⇒ サービスによっては、契約外の
eBook も目次や Index まで
見ることもできます

2

図書館内だけでなく、教室・
研究室や、自宅など学外からも
利用できる（コラム参照）
⇒ 冊子の参考図書は貸出できませんが、eBook なら図書館の外
でも利用できます

3

レポートで悩んだら

eBook は、レポートのアイデアを探すツールとしても使えます。

例えば「coffee」をキーワードに GVRL (右) を検索すると、農業、歴史、貿易などの様々な分野の事典類がヒットし、見出しや解説から、「大規模農園」「喫茶文化」「フェア・トレード」などの関連キーワードが見つかります。

≪ GVRL のトップページ ≫

<http://www.tufs.ac.jp/common/library/guide/list/gvrl/>



≪ コラム ≫

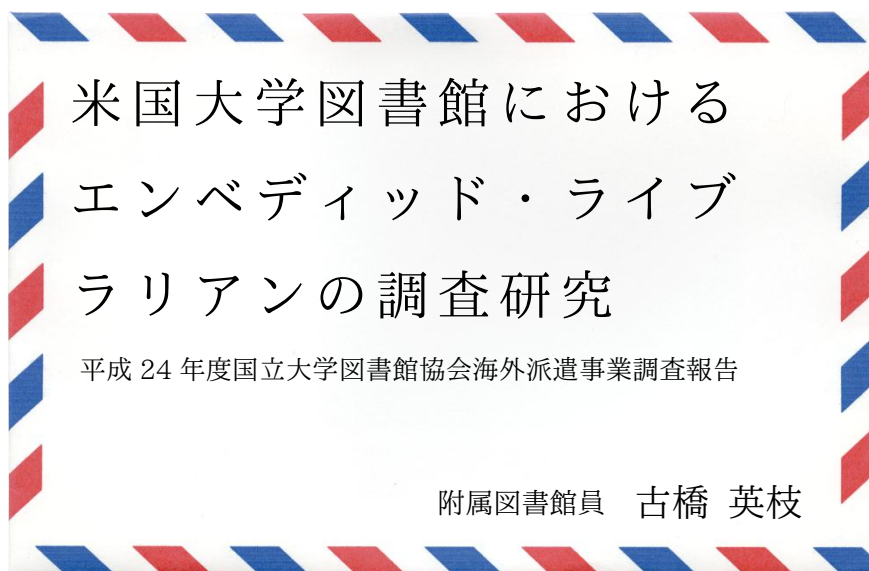
VPN サービスで、自宅から
eBook を使おう!!

図書館では、eBook や電子ジャーナル、データベースなどを学内限定アクセスで提供していますが、ICC（総合情報コラボレーションセンター）が提供している「VPN」というサービスを利用すると、自宅などの学外からでも学内限定サービスを利用できます。

利用方法は、VPN 接続用のソフトウェアをインストールして、ICC 発行のアカウント/パスワードで認証するだけです。インストール手順は、図書館 HP「自宅でも、データベースを使おう」に記載されています。以下をクリックして、早速試してみてください。

≪ VPN のインストール方法 ≫ http://www.tufs.ac.jp/library/guide/list/online_vpn.html

疑問・質問は、サービス係までご連絡ください。（tosho-service@tufs.ac.jp）



調査 スケジュール

- * アリゾナ大学
University of Arizona
平成 24 年 10 月 29 日
- * バデュー大学
Purdue University
平成 24 年 10 月 31 日
- * ミシガン大学
University of Michigan
平成 24 年 11 月 2 日

「エンベディッド・ライブラリアンって何ですか？」

本調査にあたり、この質問が何度となく繰り返されたことは、エンベディッド・ライブラリアンという名称がいかに日本の大学図書館員にとって馴染みのない言葉であるかを示している。

エンベディッド・ライブラリアンは元々「embedded librarian」と書く。日本語に直訳すると「埋め込み型図書館員」というなんとも堅苦しい用語になってしまう。要は従来のように図書館内で利用者の来館を待つのではなく、自ら館外で活動する利用者の輪に入り込もうとする、一種のフィールドワークと言える。1970年代初頭に米国の医療現場で発生した「medical librarian」に起源があると言われており、現在では医学分野以外にも取り入れられている。

筆者がこのエンベディッド・ライブラリアンに関心を持った理由は、2年前に実施した本学学生の学習実態に関するアンケート調査の結果にある。従来図書館員の得意分野と思われた「本や雑誌、論文を探す」といった場面ですら、図書館員を相談相手として選択した学生は回答者のわずか1割だった。この結果は、「図書館サービスを根本的に見直す時期を迎えているのではないか」という気持ちにさせた。

訪問を終えた今、結論から言えばお話を伺った3大学のエンベディッド・ライブラリアンたちは、何か画期的な活動を実施していたわけではなかった。むしろサービス内容だけを見れば、現在の日本の大学図書館員が行っていることと大きく変わらない。

決定的に異なっていたことの一つはサービスに臨む「姿勢」にあった。アリゾナ大学 Health Sciences Library のディレクターの言葉がそれを最も端的に示している。「サービス対象分野における専門性も大事である。しかし新しく人を雇う時、私たちはその人物の『開拓精神』を最も重視する。」

また、ミシガン大学のフィールド・ライブラリアンは自らを埋め込む意味を教えてくれた。「同じ建物の中にいるということ。それが一番効果的で、大事なこと。廊下や食堂で世間話をしたり、気軽に5分くらいオフィスに立ち寄ったり、それらがサービスのチャンスを生むきっかけになる。」

エンベディッド・ライブラリアンは今もってなお、明確な定義はない。しかし理念として掲げられている「図書館中心ではなく、利用者中心であること」「(サービスを)文脈の中に位置づけること」が真に実践されれば、旧来の大学図書館業界にパラダイムシフトをもたらすように思えた、非常に有益な調査であった。

なお、本調査の詳細な報告は雑誌『大学図書館研究』に掲載を予定している。

平成 24 年度

附属図書館公開講演会・特別展示報告

附属図書館では、社会貢献事業の一つとしてどなたでもご参加いただける公開講演会・特別展示を毎年開催しています。平成 24 年度は、本学が言語文化学部・国際社会学部の 2 学部への改組を行うとともに、わが国屈指の「地域研究の教育拠点」をめざして中央アジア・アフリカ・オセアニアを対象地域に加えたことを記念して、『風刺画の妙：モッラー・ナスレッディンの批判精神 -中央アジア学へのいざない-』と題し、本学アジア・アフリカ言語文化研究所の所蔵する 20 世紀初頭コーカサスの週刊雑誌『モッラー・ナスレッディン』を展示するとともに、監修・解説者の小松 久男 本学特任教授にご講演をいただきました。

講演会は平成 24 年 12 月 6 日(木)にアグラ・グローバルプロメテウス・ホールにて、特別展示は 11 月 21 日から 12 月 23 日まで、附属図書館 2F ギャラリーにて開催しました。以下にご講演要旨を掲載し、併せて展示資料を紹介します。

講演要旨

風刺画の妙：モッラー・ナスレッディンの 批判精神-中央アジア学へのいざない-



大学院総合国際学研究院 特任教授 小松 久男

日露戦争のさなかに起った 1905 年革命の後、帝政ロシア領内のムスリム地域では多数の新聞・雑誌が誕生し、ジャーナリズムの時代が始まった(図 1)。中でも南コーカサス地方は、イランやオスマン帝国に接し、多様な言語と宗教、そして民族が交わる地域であった。また、当時世界最大のバクー油田を持つことから、労働運動・社会主義組織が生まれ民族運動が盛んな、緊張感に満ちた地域であった。コーカサスの中心都市ティフリ

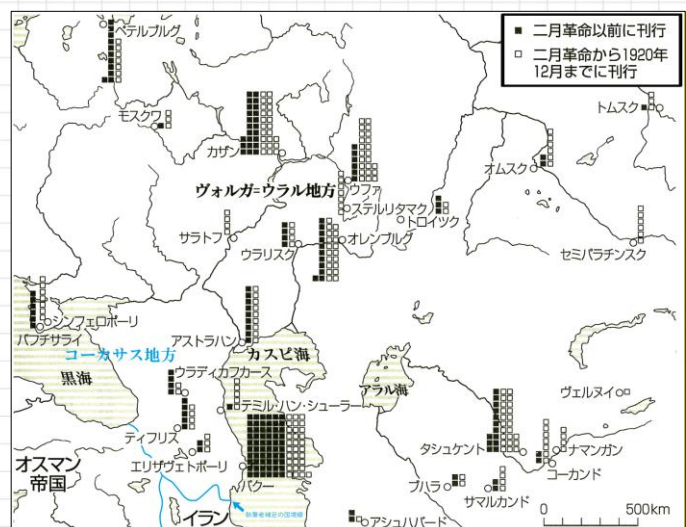


図 1 ロシア革命期に刊行されたムスリムの新聞・雑誌の地域分布図

出典：小松久男編、『中央ユーラシア史』(世界各国史)。山川出版社、2000.10, p. 394 の地図に加筆。

(A.Bennigsen et Ch. Lemerrier-Quelquejay, *La presse et le mouvement national chez les musulmans de Russie avant 1920*, Paris-La Haye, 1964, pp.216-217 の地図を基に作成)

（今はグルジアの首都トビリシ）で創刊された週刊雑誌『モッラー・ナスレディン』は、当時の政治や社会に対する批判で異彩を放っている。モッラー・ナスレディンは中央アジアからトルコまで、トルコ系の人々の間に伝わる有名なとんち話の主人公で、同紙のカラフルな風刺画にその姿が登場する。アジア・アフリカ言語文化研究所では創刊号を含む 1906～1907 年の同誌を所蔵しているが、本学のさまざまなコレクションの中でも非常に興味深いもので、100 年前のものだが今も色鮮やかである。

図 2 は創刊号の表紙である。窓の外ではすでに太陽が上っているのに、室内のムスリムは枕を並べて熟睡したままである。世界はすでに動き、進んでいるというのに、世のムスリムたちは何もせず、惰眠を貪っているのではないか、こんなことではいったいこの先どうなることやら、と右手に立つ主人公のモッラー・ナスレディンは語りかけている。



図 2 『モッラー・ナスレディン』創刊号の表紙
画：シリング
1906 年 04 月 07 日発行, No.1, p.1

『モッラー・ナスレディン』の眼は、20 世紀初頭の国際関係も的確にとらえていた。図 3 はイギリス人の頭に乗ったいかにも小柄な日本人が、おいしい果実にたとえられた新しい勢力圏や地位、権益を手にしようとする姿を描いている（日英同盟）。日本人が手を伸ばしているのは、左から、「太平洋」、「アジアにおける覇権」、「フィリピン諸島」、「シベリア」であり、イギリス人が帽子に収めているのは、「インド」、「朝鮮」、「中国における覇権」である。これに対して「けしからん」と怒ってやってくるのはアメリカ人である。

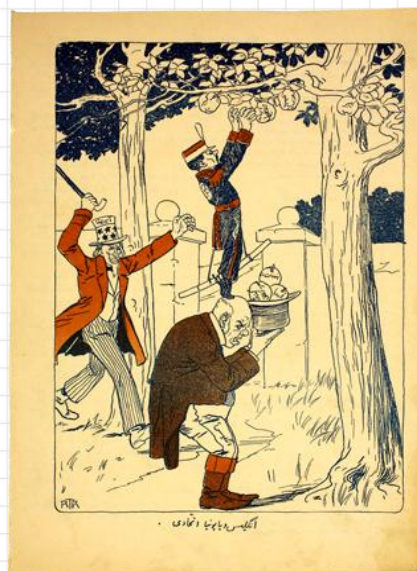


図 3 イギリスと日本の連合
画：ロツテル
1907 年 03 月 03 日発行, No.9, p.4

図 4 では、パイプをくゆらすイギリス人はインド、葉巻を吸うフランス人はアルジェリア、ビールを飲むドイツ人はザンジバル（アフリカ東海岸）、それぞれの植民地をどう料理するかを考えている。



図 4 虫の捕獲—ヨーロッパ列強の東方政策 画：シリング
1907 年 07 月 08 日発行, No.25, p.8

図5は、なぜイスラム世界が衰退したのか、現状はどうなっているかの問いかけである。4人の正統カリフが統治した初期の時代、人々は共同体の恵み（ミルク）を分かち合っていた（上段）。しかし、やがてさまざまな分派ができ、自分たちで共同体を分割してしまった（中段）。そして、いまやヨーロッパ列強にそれぞれの取り分を奪われつつあるのである（下段）。

図6は、「イスラムのカリフ制」と題されている。大木に登っていくのはヨーロッパ列強で、枝は折れたり切られたりし、オスマン帝国の領土が奪われていく姿を示している。木にはう虫たちはよく見るとトルコ帽やターバンをかぶっており、オスマン帝国の官僚・軍人・聖職者等の支配階級を表す。彼らは木に寄生するのみで何もできない無力な存在である。切られようとする枝の先でのんきにブランコを漕いでいるのはスルタン＝カリフである君主アブデュルハミト2世。彼は青年トルコ人革命により、間もなくその地位を失うことになる（1909年）。

同時代の国際関係についてわかりやすく解説をした『モッラー・ナスレディン』の一枚である。

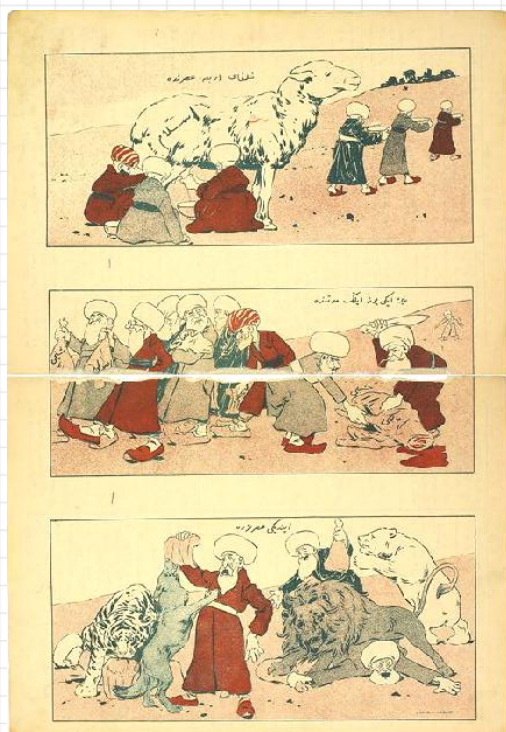


図5 イスラム世界の歴史
1907年06月02日発行, No.22, p.4-5

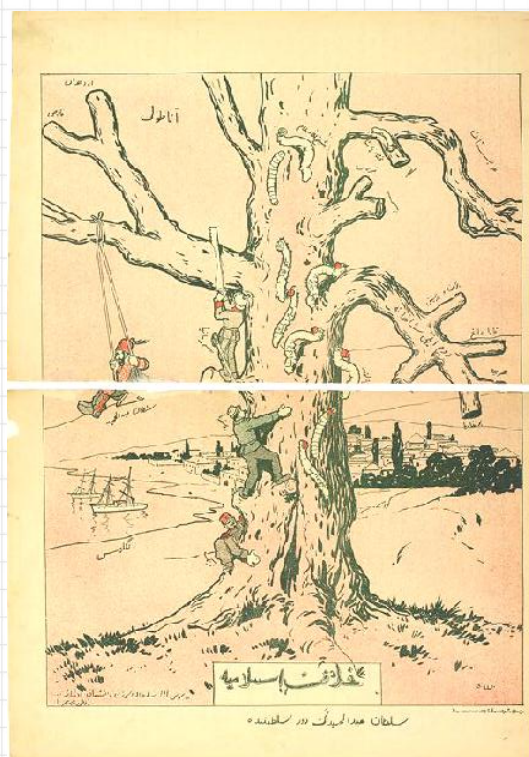


図6 イスラムのカリフ制
1907年03月17日発行, No.11, p.4-5

『モッラー・ナスレディン』の批判精神は、ムスリム社会自体にも厳しい目を向けている。図7「コーカサスのムスリム神学校」は、ロシア領内のムスリム地域で教育改革（ジャディード運動）が始まる中で、現実の学校は家畜小屋と共用の劣悪な環境であり、教育改革の道がはるか遠く険しいことを示す。



図7 コーカサスのムスリム神学校
画：シリング
1906年04月21日発行, No.3, p.1

図8は自分の孫ほども若い嫁を迎えた老人の姿を描き、当時の幼年婚の旧習を風刺している。

図9は、不当な権力や空虚な権威などの不条理にすべからく異議を唱えた『モッラー・ナスレッディン』の真骨頂を示した一枚。「われわれが毎日見ていること」とあり、いかにも気楽にかまえたロバをかついで歩く男たちの足どりは重い。ロバは愚か者の代名詞であり、身分が高い、資産がある、あるいは学識があるとされても、じつは無学で愚か者のために民衆は日々苦勞をしいられているという現実を皮肉っている。解説はなくとも、見た者にはすぐにわかったにちがいない。



図8『最初はどうなる』『最後はどうなる』
画：シリング
1907年06月25日発行, No.23, p.8



図9 われわれが毎日見ていること
画：ロットェル
1907年03月10日発行, No.10, p.4

『モッラー・ナスレッディン』の眼は国際関係から家庭内の慣習・生活に及び、幅の広さは驚くべきものであり、内容は現代のわれわれにも理解しやすい。中央アジア・中央ユーラシアの研究はまだこれからであるが、こうした資料を介して文献資料では見えない新しいものが見え、今後の新たな展望が開かれるように思われる。

関連資料

1

『ナスレッディン・ホジャ物語
—トルコの知恵ばなし—』
護雅夫訳
(平凡社・東洋文庫、1965年)

2

平成24年度附属図書館特別展
『風刺画の妙：モッラー・ナ
スレッディンの批判精神 -
中央アジア学へのいざない-』
パンフレット

<http://www.tufts.ac.jp/library/guide/shokai/tenji13.pdf>

3

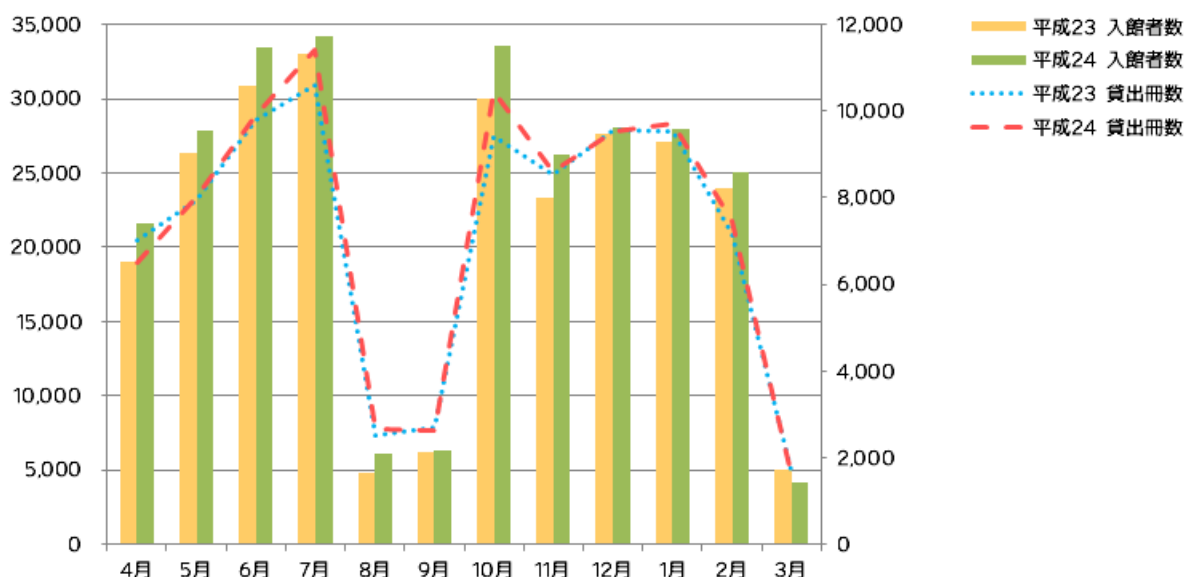
『モッラー・ナスレッディン』紙
デジタルアーカイブ (アジア・ア
フリカ言語文化研究所 情報資源
利用研究センター作成)

http://www.aa.tufts.ac.jp/~n-kondo/nasr_al_din/

図書館統計

入館者数・貸出冊数 同月比較

【平成23年度（平成23年4月～平成24年3月）、平成24年度（平成24年4月～平成25年3月）】



入館者数・貸出冊数・開館日数・開館時間数

	平成23		平成24	
	入館者数	貸出冊数	入館者数	貸出冊数
4月	19,016	7,013	21,596	6,488
5月	26,309	7,944	27,873	8,021
6月	30,819	9,793	33,509	9,917
7月	33,008	10,598	34,246	11,421
8月	4,756	2,516	6,037	2,672
9月	6,169	2,688	6,335	2,615
10月	30,051	9,436	33,590	10,470
11月	23,379	8,532	26,185	8,591
12月	27,632	9,568	28,113	9,542
1月	27,143	9,541	27,926	9,699
2月	24,026	7,152	25,099	7,480
3月	5,004	1,703	4,135	1,617
合 計	257,312	86,484	274,644	88,533
開館日数	267		290	
開館時間	2,760		2,928	

図書館ホームページではより詳細な内容がご覧いただけます。

◀ 入館者数 ▶

http://www.tufs.ac.jp/library/gaiyo/toukei/toukei_visitors.pdf

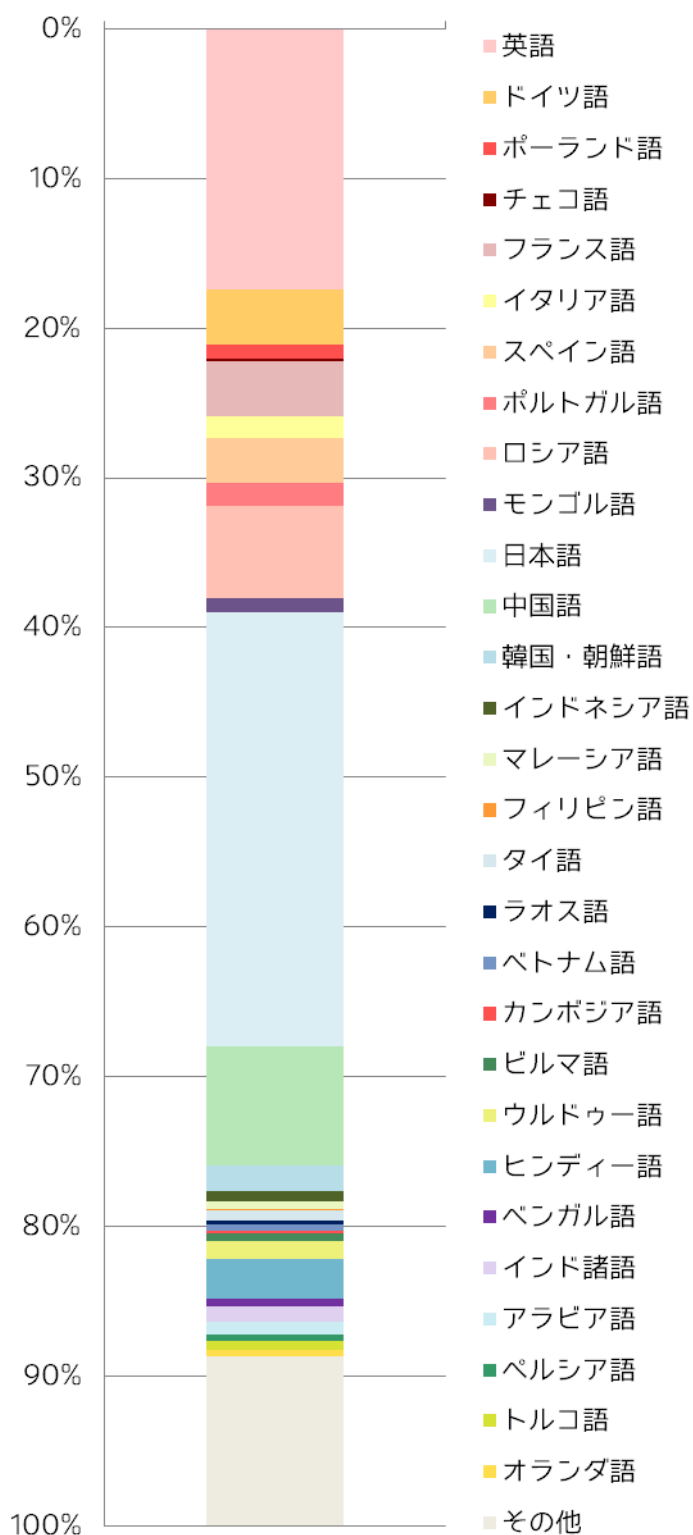
◀ 貸出冊数 ▶

http://www.tufs.ac.jp/library/gaiyo/toukei/toukei_loan.pdf

附属図書館・言語別所蔵冊数

【平成 25 年 4 月現在】アジア・アフリカ言語文化研究所蔵書は除く

言語名	冊数	割合
英語	116,664	17.39%
ドイツ語	25,095	3.74%
ポーランド語	6,114	0.91%
チェコ語	1,308	0.20%
フランス語	24,241	3.61%
イタリア語	10,013	1.49%
スペイン語	20,267	3.02%
ポルトガル語	9,956	1.48%
ロシア語	41,492	6.19%
モンゴル語	6,258	0.93%
日本語	194,604	29.01%
中国語	53,478	7.97%
韓国・朝鮮語	11,262	1.68%
インドネシア語	4,405	0.66%
マレーシア語	3,783	0.56%
フィリピン語	365	0.05%
タイ語	4,464	0.67%
ラオス語	1,984	0.30%
ベトナム語	2,882	0.43%
カンボジア語	1,265	0.19%
ビルマ語	3,155	0.47%
ウルドゥー語	8,002	1.19%
ヒンディー語	18,095	2.70%
ベンガル語	3,134	0.47%
インド諸語	7,307	1.09%
アラビア語	5,412	0.81%
ペルシア語	2,987	0.45%
トルコ語	3,914	0.58%
オランダ語	2,758	0.41%
その他	76,072	11.34%
合計	670,736	



📖 図書館活動日誌（平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）

【活動】

- 4 月 1 日 TUFs-ラーニングコモンズ（愛称「@ラボ」）サービス開始
- 4 月 5 日 入学式（館報「Castalia（カスターリア）」等配布）
- 4 月 11 日 図書館オリエンテーション（全 4 回 ～18 日）
- 4 月 19 日 学術リテラシー科目附属図書館担当分講義「附属図書館利用案内」（全 3 回 4 月 28 日・5 月 8 日と計 3 日間）
- 4 月 20 日 リクエストガイダンス（全 13 回 ～12 月）
- 5 月 17 日 学術リテラシー科目附属図書館担当分講義「情報検索演習」（全 6 回 5 月 22 日・5 月 31 日・6 月 5 日・6 月 12 日と計 5 日間）
- 5 月 22 日 Word 講習会（多言語コンシェルジュ企画）（全 3 回 ～1 月 25 日）
- 6 月 6 日 平成 24 年度第 1 回図書館委員会
- 6 月 19 日 PowerPoint 講習会（多言語コンシェルジュ企画）
- 6 月 20 日 情報検索ガイダンス（全 8 回 ～29 日）
- 6 月 27 日 平成 24 年度第 1 回選書委員会
- 7 月 28 日 オープンキャンパス図書館見学
- 9 月 20 日 図書館オリエンテーション（全 3 回 ～10 月 16 日）
- 9 月 24 日 北京外国語大学図書館副館長及び北京日本学研究中心職員来訪
- 10 月 9 日 出張コンシェルジュ（学習相談）実施（全 2 回 ～10 日）
- 10 月 22 日 情報検索ガイダンス（全 5 回 ～26 日）
- 11 月 7 日 平成 24 年度第 2 回選書委員会
- 11 月 8 日 東南アジア教育大臣機構 東南アジア語学教育改善センター関係者来訪
- 11 月 21 日 平成 24 年度附属図書館特別展示（「風刺画の妙：モッラー・ナスレディンの批判精神-中央アジア学へのいざない-」～12 月 23 日）
- 11 月 23 日 オープンキャンパス図書館見学（11 月 21 日～24 日はホームカミングデイズ図書館見学も実施）
- 11 月 29 日 日本・サウジアラビア青年交流計画によるサウジアラビア代表団来訪読書会（多言語コンシェルジュ企画）
- 12 月 4 日 プレゼンテーション講習会（多言語コンシェルジュ企画）（全 2 回 ～1 月 25 日）
- 12 月 6 日 平成 24 年度附属図書館公開講演会（小松 久男 本学特任教授「風刺画の妙：モッラー・ナスレディンの批判精神-中央アジア学へのいざない-」）
- 1 月 31 日 Excel 講習会（多言語コンシェルジュ企画）
- 2 月 13 日 平成 24 年度第 3 回選書委員会
- 3 月 14 日 平成 24 年度第 2 回図書館委員会

【学会会議・研修等】

- 4 月 20 日 国立大学図書館協会東京地区協会総会 2 名参加（於 東京農工大学）
- 6 月 14 日 東京西地区大学図書館協議会加盟館会議 1 名参加（於 亜細亜大学）
- 6 月 21 日 第 59 回国立大学図書館協会総会 1 名参加（於 神戸市）
- 8 月 24 日 東京西地区大学図書館協議会若手職員のためのセミナー 1 名講師参加（於 国際基督教大学）
- 10 月 23 日 東京西地区大学図書館協議会実務担当者会議 2 名参加（於 東京工科大学）
- 10 月 28 日～11 月 4 日 国立大学図書館協会海外派遣事業（米国大学図書館の訪問調査） 1 名参加
- 2 月 20 日 国立大学図書館協会地区協会助成事業 東京地区協会職員企画による研修開催（於 当館 TUFs-ラーニングコモンズ）

📖 編集後記

館報 Castalia は、今号（第 20 号）からインターネット版にリニューアルしました。本学の学術機関リポジトリである、「東京外国語大学学術成果コレクション」にて公開いたします。

(<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/32>)

図書館の新サービスの案内や、講演会・展示会等の活動報告を充実させてまいります。

Castalia：東京外国語大学附属図書館報 第 20 号

2013 年 9 月 30 日発行

発行：東京外国語大学附属図書館 〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

電話：042-330-5193 ホームページ：[http:// www.tufs.ac.jp/library/index-j.html](http://www.tufs.ac.jp/library/index-j.html)